



公益社団法人 秋田県理学療法士会

Akita Physical Therapy Association NEWS

ParTner

Vol.211

2024 Winter

広がれ 秋田県理学療法士会員、そして地域との輪

令和6年元旦 会長より新年の挨拶
学術推進・応援企画 教えて!抄録作成のコツ!

表彰報告

研修会・セミナー案内

会長のあゆみ/思い邪無し

発行:公益社団法人 秋田県理学療法士会

会長:菅原 慶勇 責任編集:佐々木杏奈 印刷:(株)秋田情報プリント

事務局:〒010-0921 秋田市大町1丁目2-40

TEL・FAX 018-867-1804 E-mail akitapt-home@ptakita.org

ホームページ <https://www.ptakita.org>

令和六年元旦

謹賀新年



秋田県理学療法士会 会長

菅原慶勇

謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

まさか、年始早々、能登半島を震源とする震度7の地震が発生し、甚大な被害が発生しました。加えて、救援に向かうはずの海上保安庁の航空機が羽田空港で日本航空の旅客機と衝突、炎上する事故が発生し海上保安庁の乗員がお亡くなりになりました。この出来事が現実だとは、いまだに理解できていません。犠牲となられた方々に対しまして心より哀悼の意を表するとともに、被災された皆様方におかれましては心よりお見舞い申し上げます。能登半島では今もなお強い余震が続いており、予断を許さない状況ではございますが、皆様が一日も早く安全、安心な生活を取り戻されますことを、心よりお祈り申し上げます。また、被災地の復旧・復興に尽力いただいている関係各所機関の皆様にご感謝申し上げますとともに、一日も早く復旧・復興が進むことを、心よりお祈り申し上げます。

さて、当士会事業を顧みます。会員の皆様には、旧年中当会の運営につきまして多大なるご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございました。昨年5月8日に、新型コロナウイルスの感染法上の分類が2類から5類へ引き下げられたことを転機として、当会の事業形態は、十分な感染対策を継続しながらもコロナ禍で学んだリモートと対面を織り交ぜ、県民ならびに会員の皆様にご有益な情報を提供してまいりました。いかがでしたでしょうか。

12月6日の理事会には、来年度の事業計画案が各部から提出されました。事業内容は、今年度を踏襲したうえで対面研修が増えているように感じられました。あくまでも事業開催のスタンスは、南北に長い秋田の地理的不利を埋めること、結果として多くの会員の皆様に参加していただくことが、秋田県の保健・医療・福祉の発展に大きく資することに繋がると考えています。来年度も、うまくリモートを織り交ぜた工夫が施されていることをご報告いたします。さらに、来年度から新卒者に限り1年間、Web研修を無料とすることも決定いたしました。新卒者が入職されるご予定である施設管理者の皆様には、是非4月に忘れずにお知らせ頂ければと思います。加えて、今年度の事業もまだまだ残っていますので、是非積極的なご参加をお願いいたします。

情報化時代が到来し、コロナ禍がリモートワークに拍車をかけることで、私たちの生活は大きく変化しました。情報・情報機器の有益な使用・利用により、人々の価値観や行動様式も大きく変容してきました。このような時代において、当会が持続的に発展していくためには、情報化を積極的に活用したうえで、かわらず県民の皆様のご健康増進に貢献していくことだと思っています。そのためには、やはり法人の基本である情報公開と主に会員の連携が重要であることは言うまでもありません。

会長より 新年のご挨拶

情報公開に関しては、ホームページや紙媒体による従来のものから、SNSのように携帯電話ひとつですべてが完結できるような類のものまで、積極的に関与していかなければならないと思っています。どなたもが、ストレスなくアクセスしやすいように、新旧並存で対応してまいります。アーカイブを初学者向けのセミナーに活用する案も出ており、今後の士会財産の活用方法の進展も楽しみです。

会員相互の連携に関しては、当会ではすでに、3ブロック（県北・中央・県南）を軸とした9地区（鹿角小坂・大館北秋田・能代山本・男鹿潟上南秋・秋田中央・由利本荘・大仙仙北・横手・湯沢雄勝）の区割りが出来上がっているのです、これを基本としてコミュニティごとのつながりを強くしていくことが必要になります。9地区の会員が、勉強会などの企画を通して連携を強めていくなど、自主的な活動が最も簡単な手法であると思いますが、そのきっかけがつかめないなど活動が停滞している地区がほとんどです。そこで、それぞれの地区で3役を交えた情報交換会や親睦会などの企画ができないか、模索してみたいと思います。各市町村の窓口である9地区が関わるであろう各種予防教室、公開講座、災害派遣、秋田県リハビリテーション専門職協議会活動などの事業は、どれをみても肝要であり、これがスムーズに連携できれば言うまでもなく士会活動が頭の前から足の先までうまく血が通う

こととなります。会員の皆様には、今までにも増して士会活動推進のために、ご指導ならびにお力をお貸しいただければと思います。

今年は辰年です。年明け早々、不幸な出来事の連続に心が折れそうになってしまいましたが、予測困難なこの時代だからこそ、俯瞰して敏感な決断と対応をしていきたいと思っています。私がイメージする龍は、神々しく昇天する姿なのですが、昇龍にあやかり、日本が不幸な出来事から早く立ち直り、活気を取り戻すことを祈っています。そのためにも、当会は微力ながらも、少しでもお役に立てるよう尽力したいと考えております。

本年が会員皆様にとって、災い何事もなく、健やかで幸せな一年となりますよう心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。

秋田県理学療法士会 会長
菅原 慶勇

教えて！ 抄録作成 のコツ！

今年こそは学会発表にチャレンジしてみたい…データや症例はあるけど、これからどうしたらいいかわからない…。

そんなあなたのために経験豊富な先輩理学療法士からの、熱のこもった本気の指導を紙面講義でお届けします！

今回は学会発表への第一歩、抄録作成のコツを 秋田大学医学部附属病院の 高橋裕介 氏からご指導頂きます。



今回の講師

高橋 裕介（秋田大学医学部附属病院）

- ・資格：博士（保健学）、循環認定理学療法士、基礎理学療法専門理学療法士など多数
- ・座右の銘：和を以て貴しとなす

学術推進・応援企画

1. 教えて！抄録作成のコツ！

2. 教えて！プレゼンのコツ！

抄録とは何か

抄録(Abstract)とは「原文から必要な部分だけを書き抜いて短くまとめた文章」のことです。特に学術において「原文」とは、論文や学会発表の内容を指しています。ただし、多くの場合は演題登録で作成する抄録に「原文」に相当するものはなく、発表者の頭の中にある研究内容を文字に起こしていく最初の作業と言えます。登録された抄録は査読を受け、採択の可否が決定されます。学会によっては学会賞などを設けており、その審査演題にノミネートされるかどうか抄録の内容によって判断されています。そのため、抄録作成では**限られた文字数で必要十分な情報がわかりやすく読み手に伝わるよう配慮**が求められています。

抄録作成の準備

抄録を作成するにあたり、事前に投稿先の募集要領等を確認し「抄録の構成」、「演題名・本文の文字数」、「用語・表記の注意点」、「キーワードに関する指示」、「使用できる文字種」、「登録可能な演者数と所属機関数」等を確認しておきましょう。文字数は600字前後の場合が多いですが、日本理学療法士協会に関連した学会では1000～1800字程度と比較的多めに設定されています。また、理学療法やリハビリテーションに関連した学会では「訓練」や「障害」、「リハビリ」といった用語の使用を自粛・禁止している場合があります。学会の指定がなくとも一般的に不適切な表現（例：「啓蒙」は現在では差別的な表現とされており「啓発」と表記する）は用いないよう注意しましょう。

作文上の注意点

1. 文体

抄録は「だ・である調」で記載しましょう。報告内容は常に過去のものであるため、時制は過去形が適切です。箇条書きや体言止めは不適切です。文体（文章のスタイル）にはある程度は筆者の个性的特色が表れ、細かい表現法は好みの問題として許容されます。

2. 専門用語の適切な使用

文字数制限がある抄録では専門用語を適切に用いることで端的な表現にできます。以下の例では「検査者間信頼性」という用語を用いることで22字削減できました。さらに前文と比較して説明的な“くどさ”がなくなり、すっきりしてわかりやすいと思います。

専門用語を使用しない例：

「本研究の目的はHHDによる膝伸展筋力測定を異なる検査者で行った場合の誤差は臨床上許容できるかどうかを明らかにすることである」

専門用語を使用した例：

「本研究の目的はHHDによる膝伸展筋力測定の**検査者間信頼性**を明らかにすることである」

ただし、専門用語は「適切」に使用することではじめて効果を発揮します。認知度の低い用語であれば事前に説明を書き加える必要がありますし、さらに文全体がわかりづらくなる場合もあります。そのため、使用している専門用語が当該学会において本当に一般的に知られている専門用語なのか予め調べておくことも大切です。

3. 略語とその扱い

略語はその語句が初出した箇所でスペルアウトし、その後括弧書きで略語を示します；例、人工股関節全置換術（THA）。以降は最初に定義した意味で、最後まで文全体で一貫した表記にしましょう。ADLやQOLのような業界で標準化されている語句はスペルアウトしないことも許容されます。なお、演題名には略語を用いないようにしましょう。

繰り返し使用する語句には略語をうまく使うことで、文字数に余裕を持たせ、かつ読みやすく分かりやすい文章にまとまります。一方で、独自の略語は読者がそれを覚えるという手間が加わるため、略語を多用し過ぎるとかえって読みやすさを損なってしまいます。やみくもに略さずに、読者にとってその略語が効果的であるかどうか吟味するをお勧めします。

抄録の構成

一般に研究報告の場合、演題名、演者名、所属、抄録本文（序論/背景/はじめに、方法、結果、結論/考察/おわりに）、キーワードから構成されます。症例報告であれば抄録本文は背景、症例、経過、考察とすることが多いです。抄録本文の小見出しについては各学会で異なるため、規定に従いましょう。ここでは研究報告を取り扱い、小見出しは「序論、方法、結果、考察」としてお伝えします。

1. 演題名

私たちは演題名から聴講する演題を決めることが多いのではないのでしょうか。そのため、報告の趣旨が伝わる演題名が理想的と言えます。また、演題名にはキーワードを含めるようにしてください。特に主張したいことや取り入れた新しい方法などがある場合は副題をつけるのも効果的です。

ところで、疑問形の演題名の使用については注意が必要です。ガイドラインにおけるクリニカルクエスションに代表されるように、学術的に疑問形は疑問に対して十分な結論（答え）を示せる場合に用いられます。そのため、疑問形の演題名（例：〇〇法は〇〇患者に有効か？）は挑戦的な印象を与えるものであり、提示した疑問に対して統計学的に十分な結果を得られている場合を除いて避けたほうが無難です。

2. 演者とその所属

筆頭演者を一番目に記載し、共同演者が複数いる場合は研究への貢献度が高いものから順に記載します。演者の所属長や研究指導者などは最後に記載するのが一般的です。報告内容に貢献がないものを共同演者に加えることはGift authorshipという研究不正

の一種であるため、演題投稿の前段階あるいは研究計画の段階で予め共同研究者について総意を得ておきましょう。また、共同演者の名前や所属の表記には十分な注意を払ってください。特に特殊な字体が使用されている場合や旧姓を用いているもの、所属が2か所以上ある場合などは本人の意向を確認しておきましょう。

3. 序論

序論では研究の意義や必要性、目的を記載します。構成としては、① 一般的に知られていること、② 業界/領域の既知（=先行研究の提示）、③ 業界/領域の未知や課題、④ 報告の目的、の順番に記載するのが定石です。

4. 方法

研究のデザイン、対象の条件と選定、測定方法、解析方法などを記載します。要点として、読者が同じ方法を繰り返せること（再現性）、方法の妥当性や正確さを判断できることを意識して記載することが大切です。ただし、抄録の場合は書き抜くべき必要な部分の判断がなかなか難しい作業です。特に独自性や新規性に関わる箇所はできる限り詳細に記載するようにしましょう。

使用した機器の詳細を記載する必要がある場合、一般名（商品名、会社名の順）で記載します。独自の測定方法を用いた場合は詳細な説明が必要です。既存の測定方法を踏襲した場合は先行研究に従った旨を記載するだけでもよいです。解析方法にはどのような統計学的検定法を用いたか（ t 検定、ピアソンの積率相関係数など）、解析ソフトは何か（SPSS ver12、R commanderなど）、有意水準（ $p < 0.05$ や95%信頼区間など）をどのように設けたか等も記載しましょう。

5. 結果

研究で得られた成果を記載します。注意が必要な点として、結果の項には**客観的なデータのみを記すべきであり、結果の解釈は記載しない**ことです。表記する統計量（平均値、中央値、比率など）、対象の基本属性（人数、年齢や体格など）、統計学的検討の結果などです。統計量として平均値を用いる場合は平均値±標準偏差、中央値を用いる場合は中央値（25パーセンタイル、75パーセンタイル）であることを明示します。単位は国際単位系（SI単位）を用います（表1）。また、統計学的な言い回しとして、差の検定では「AはBよりも有意に低値/高値であった」などのように、どのような差があるのか明記しましょう。ときどきみかける「A群とB群の間に有意差があった」「A群はB群よりも低い傾向があった（ $p = 0.11$ ）」など

は不適切な例になります。さらに、データ記載の原則として、「方法」の記載順に従って書く、古い既知のものから新しい未知のもの(今回の新規性)の順に書いていく。さらに全体的なことから順次項目を分けて詳細に記述することを推奨します。

学会によっては結果に図表を用いることができます。この場合、表は横軸に群、縦軸に測定項目を載せ、数値の欄に単位が入らないように工夫しましょう。また、略語や記号を用いた場合は脚注で示します。線は表1のように横線3本にします。図の場合、白黒印刷を想定した配色とし、軸の名前と単位を忘れず記載すること。軸の目盛の大きさなども配慮して作成すると良いでしょう。図表のタイトルは表の場合は上、図の場合は下に記載するのがルールです。

表1. SI基本単位

量の名称	単位の名称	単位記号
長さ	メートル	m
質量	キログラム	kg
時間	秒	s
電流	アンペア	A
熱力学温度	ケルビン	K
物質量	モル	mol
光度	カンデラ	cd

結果の記載例(新たなダイエット法):

結果を平均値±標準偏差で示す。介入群は20名(男性10名、年齢22±1歳、BMI 25.3±0.5kg/m²)、対照群は21名(男性12名、年齢21±1歳、BMI 26.3±0.2kg/m²)であった。体重は介入群58.2±2.0kgと比較して対照群65.0±4.0kgが有意に低値であった(p=0.03).」

6. 考察

研究で得られた結果の解釈を述べる、つまりは結果の意義や意味を読者に伝える項になります。また、報告の内容がその業界の進歩にどのように貢献するかも述べます。抄録の場合は結論も包含しています。**序論で述べた研究目的と一致すること、論理的な飛躍がないことが重要です。**ただし、論理的飛躍を避けるがあまり、「結果の繰り返し」になってはいけません。また、突然新しいタームやアイデアを述べ出してもいけません。

使用する上で注意が必要な表現として「～という可能性はある」を挙げておきます。これには ① 確信の度合い(主張の強さ)を弱める表現、② 未知の存在を示唆する表現 の2つの用いられ方があります。

① 確信の度合い(主張の強さ)を弱める表現は英語で言うところの、「There is possibility of～」などに該当します。英語であれば Probably/Certainly/Undoubtedly(90%以上)、Likely(65%以上)、Maybe(30～50%程度)、Perhaps(30%以上)、Possibly(30%以下)のように程度を分けて表現できますが、日本語では「～という可能性はある」という表現に限定されてしまいます。極端な例では「という可能性が示唆されたと考えられた」のような非常に曖昧な表現をしている場合もあります。そこまで確信の度合いが曖昧なのであれば、報告の内容を改めたほうがよいと言えるでしょう。

② 未知の存在を示唆する表現について、そもそも研究は未知の「可能性」を明らかにするために行うものです。従って、この「可能性はある」は今回の報告では明らかにできなかった取り扱えない課題であり、多くを言及すべきではない、ということになります。研究の限界や今後の展望等に記載されるのがふさわしいのですが、文字数が限られた抄録ではあくまで結果から述べられることにだけ焦点を絞って記載したほうが良いでしょう。

次に助動詞「れる・られる」についても述べておきます。論文や抄録では受動態の使用を避け、能動態を用いるようにしましょう。例えば、「この従来とは異なる新たなアプローチは我々によって考案された」という受動態よりも「我々は従来とは異なる新たなアプローチを考案した」という能動態を用いたほうが主語と述語の関係がはっきりとします。しかし、助動詞「れる・られる」には ① 受け身、のほかに ② 可能、③ 自発、④ 尊敬の意味があります。抄録において、読者が① 受け身と ② 可能の意味を鑑別しづらい場合があり、代表的な表現に「考えられた」があります。自然科学系の文章内では「客観的な事実に基づいて分析した結果としてこのような結論を導くことができる」という ② 可能の意味で「考えられた」と記載することが望ましく、個人が主観的に感じたり思ったりしたことを表す「～と考えた(I think...)」は(能動態ですが)避けるべき文章表現とされます。しかし、理学療法領域では症例報告などではそのプログラムは担当者が「考えた」はずであるし、前述の例で出した「我々は従来とは異なる新たなアプローチを考案した」は「考案した」が適切です。本来、主語と述語の関係に留意していれば意味を読み間違えることはありません。しかし、執筆に不慣れなものは過去の例を見よう見まねで挑戦するために文法上の誤りが生じ、読者の誤解を招きかねません。誤りの根源は助動詞「れる・られる」の用法ではなく、主語と述語の関係であることに注意しましょう。

7. キーワード

報告内容に合致したキーワードを選びましょう。キーワードはタイトルの一部として含まれている必要があります。

8. 倫理的配慮

日本理学療法士協会に関連した学会では抄録の文字数とは別枠で倫理的配慮の記載を求められています。

■ おわりに：抄録を完成させるコツ

以上、抄録の書き方について概説しました。冒頭で「少ない文字数で必要十分な情報をわかりやすく記載する」と記載したものの、そもそも原文となる論文自体が必要十分な情報量でわかりやすく書いているため、それをさらに書き抜くのはかなり無理難題です。さらに、学術報告は独自性と新規性を売りにしているため、一定の型はあるものの個別に表現の工夫や配慮が必要にもなります。完成させるにはどこかで妥協し、切り上げなくてはなりません。しかし、一人で悩みながら書いていると、だんだんと良いのか悪いのか判断がつかなくなってきます。

抄録は自分の記録ではなく、読者を意識して書くものです。ある程度書き上げたら他の人に読んでもらって意見をもらうのが私の思う抄録を完成させる最大のコツです。自分の知らない専門用語などを教えてもらえるかもしれません。できれば学術活動の経験豊富な方の意見をもらうようにしましょう。身近にそうした人がいない場合は、専門領域研究班の各グループあるいは秋田県理学療法士学会の抄録作成サポートを積極的に活用してみてください。

(文責：高橋裕介／編集：加賀屋勇氣)

2023年11月18日作成

鉄は熱いうちに打て！
さっそく秋田学会にむけて
抄録にチャレンジしよう！

第28回 秋田県理学療法士学会 演題募集が始まっています！

2024.

演題募集期間

1.8 Mon – 2.16 Fri

学会演題募集に向けて

新春の候、皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、2024年6月29日（土）に対面とオンラインのハイブリッドにて公益社団法人 秋田県理学療法士会の第28回学会を開催する運びとなり、鋭意準備を進めているところです。

下記の期間におきまして、本会の演題募集を開始いたしますので、皆様にご案内申し上げます。ご連絡させていただきます。

会員の皆様には多くの演題をご応募いただき、活発な議論により本学会を大いに盛り上げていただきますよう、ご協力の程、何卒お願い申し上げます。

末筆ながら皆さまの益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

第28回秋田県理学療法士学会 学会長

ジョーンズ 佳子

表彰報告

令和5年秋の叙勲にて菅原巳代治先生が旭日双光章を授与されました。令和5年度環境・保健事業功労者表彰式にて介護老人保健施設榮寿苑の加藤和枝先生、介護老人保健施設やかたの柴田信行先生、秋田リハビリテーション学院のジョーンズ佳子先生の3名の先生方が医療功労賞として表彰されました。4名の先生方からお言葉を頂いておりますので、ご紹介いたします。

令和5年秋の叙勲 旭日双光章

菅原 巳代治



佐竹知事より授与される菅原巳代治先生

この度は、身に余る叙勲の栄をいただき、心より秋田県理学療法士会の皆様に感謝申し上げます。国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院卒業と同時に秋田に就職した私はとても不安でした。しかしながら、貴田正秀3代目秋田県士会長をはじめ多くの諸先輩、同輩、後輩に恵まれ、また職場の皆様からもご支援をいただき、何とか重責を全うすることが出来ました。若輩未熟な小生が、全国学会準備委員長や士会長、さらには協会理事に就任できたことは、皆様や家族の支えと改めて実感しております。第17回日本理学療法士学会テーマ『理学療法士の志向性』は初心であり今も変わりません。専門職として不安を希望に変えるには、誰に喜んでもらうか、そのために何をするかであり、「切磋琢磨」と組織の強化を図り社会認知度を高めることだと信じています。その意味で今度の叙勲が次の仲間に繋がる第一歩になればと願い、皆様方と喜びを分かち合えれば幸いと存じます。

環境・保健事業功労者 医療功労賞



介護老人保健施設榮寿苑 加藤 和枝

この度は秋田県理学療法士会から推薦いただきありがとうございます。県士会の介護保険福祉部長を数年と、湖東病院に在職中の市町村の保健事業への協力を評価していただけたのかと思います。現在、私は右片麻痺なのですが、老健で寝たきりから座位レベルの利用者さんに現役のPTとして仕事をしています。実際に障がいをもって感じることは、教科書に書いてあることが全てではないということです。人それぞれで一番良い方法を利用者さんと一緒に考えていきたいと思っています。

県士会で私を推薦してくださった皆様はじめ、私を支えてくれている職場の皆様感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

介護老人保健施設やかた 柴田 信行

この度は、身に余る賞を頂き本当に有難う御座います。このような栄誉は自分には縁のないものだと思っておりましたので、授賞のお知らせを頂き唯々驚いております。これまでの活動が最高の形で評価頂きましたことは、この上ない喜びです。中でも菅原慶勇会長と畠山和利先生が表彰式会場にお越し下さり、授賞した先生方と一緒に祝いして頂いたことは一生の記念になりました。上村佐知子先生初め選考委員の皆様から評価して頂いた事を知り本当に嬉しく思いました。これも、日頃指導して下さいいる佐竹将宏先生、そして、応援して頂いた全ての方々のお陰と感謝しております。この気持ちを忘れず、これからも向上心を持って精進したいと思います。

秋田リハビリテーション学院 ジョーンズ 佳子

この度、環境・保健事業功労者（医療功労者）として、表彰していただきました。表彰していただくということは非常に名誉なことであり、思いもかけないことで驚きましたが、同時に本当に嬉しく思いました。また、私のこれまでの理学療法士としての時間を振り返ることができました。先輩方、周囲の皆様、患者様やご家族の方々も含め、私は本当に恵まれて来たな、と感じております。皆様のおかげで、自分にできることをただひたすら続けていくことができたと思ひ、今は感謝しかありません。これからも健康に留意して、自分に求められている仕事に一生懸命に取り組んでいきたいと思ひます。本当にありがとうございました。

メール配信が新しくなります！

みなさん、こんにちは！庶務班長をしております、市立秋田総合病院の川越です。皆さんはメール会員のご登録は御済みでしたでしょうか？もしかすると、ご存じなかった方もいるかもしれません。庶務班では、予てより会員の皆さんにいち早く有益な情報をお届けするために、メール会員へのご登録を推進しておりました。しかし、依然として施設単位では**4施設に1施設**、会員単位では**約2人に1人**に、情報がお手元に届いていない現状があります。

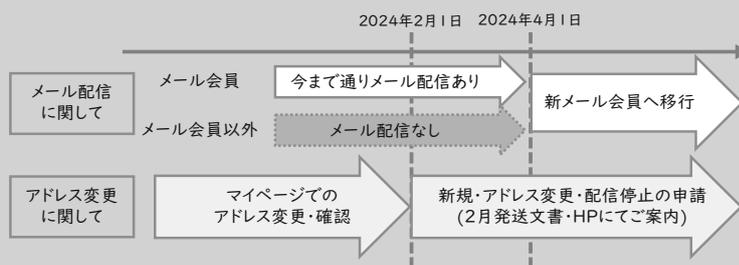
エリア	施設	施設会員	自宅会員
中央	65/87(75%)	205/392(52%)	0/7(0%)
北部	23/32(72%)	63/139(45%)	6/23(26%)
南部	29/38(76%)	70/182(38%)	3/8(37%)
計	117/157(74%)	338/713(47%)	9/38(23%)

メール会員登録状況(R5.11.2時点)

メール会員登録の目的として①紙媒体から徐々に電子化への移行を進め、印刷費・郵送費などの予算削減②災害発生時の情報伝達③施設単位ではなく会員個人単位へリアルタイムな情報提供、以上の3つが大きく挙げられます。

そこで、来年度より、迅速かつ漏れなく情報をお届けできるように**日本理学療法士協会のマイページに登録している皆さんのメールアドレスに情報を配信する準備**を始めております。

2024年2月1日時点の日本理学療法士協会マイページに登録してあるメールアドレスに配信する予定です。2月1日前にマイページに登録してあるメールアドレスを変更すると、変更後のメールアドレスに送信されます。新メール会員では、**現在のメール会員かどうかに関係なく、マイページに登録してあるメールアドレスに今後メールが届くという形になります。**



今後、研修会文書等は施設に郵送されなくなり、メールでのご案内となります。なお、配信停止や2024年2月2日以降にメールアドレス変更・新規登録される方に関しては秋田県理学療法士会<akitapt-home@ptakita.org>からのテストメール、あるいは2月中旬の定期発送、および秋田県理学療法士会ホームページ上にてご案内する予定です。何卒ご協力・ご理解の程、よろしくお願い致します。

文責：庶務班 川越 厚良

令和5年度 臨床実習指導者講習会の御礼

今年度の臨床実習指導者講習会は、日程通り実施することができました。参加者及び職場のご配慮に対して厚く御礼申し上げます。第2回目は久々の対面開催を予定していましたが、コロナ禍の波がおさまらず、Zoom開催に変更いたしました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したとはいえ、まだまだ安心できないことを実感しております。

参加いただいた人数及び病院・施設数をお知らせします。

第1回 10月21日(土)・22日(日) 参加人数 ▶ 23名、19病院・施設

第2回 11月18日(土)・19日(日) 参加人数 ▶ 16名、12病院・施設

今年度もご協力いただき、大変ありがとうございました。

次年度も引き続き2回の開催を予定しております。日程等が決まりましたら、本ニュース等でお知らせいたします。今後とも理学療法士養成について、お力添えをいただけますようよろしくお願い申し上げます。

秋田県臨床実習指導者講習会協議会
佐竹 将宏・ジョーンズ 佳子

R5年度 秋田県理学療法士会 研修会

※ 締め切り間近 ※

神経 研究班

リハビリ職は脳卒中後遺症で悩む患者さんの希望である

講師 ▶ あをによしリハビリ脳神経外科クリニック 院長 吉岡 正太郎 先生

日時 ▶ 令和6年1月31日(水) 18:30~19:30

開催方法 ▶ Web 開催 (Zoom) 参加費 ▶ 無料

申込方法 ▶ 日本理学療法士協会マイページ(セミナー番号:119969)

カリキュラムコード ▶ 区分6「77 中枢神経疾患の理学療法」

小児 支援班

小児関連分野の理学療法セミナー

講師 ▶ 健康科学大学 健康科学部 リハビリテーション学科長 粕山 達也 氏

秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻理学療法学講座 助教 木元 稔 氏

札幌医科大学附属病院 宮城島 沙織 氏

秋田県立医療療育センター 堀岡 航 氏

小児に関連する、様々な分野で活躍されている講師を4人お招きしてご講演をいただく貴重な機会となっております。これを機会に小児に関わっている、興味のある会員のネットワークを強化したいと考えております。是非ご参加ください。

日時 ▶ 令和6年2月10日(土) 14:00~16:30

開催方法 ▶ Web開催 (Zoom) 参加費 ▶ 無料

申込方法 ▶ 日本理学療法士協会マイページ(セミナー番号:121061)

申込締切 ▶ 令和6年2月4日(日)

お問い合わせ ▶ ✉ akitadeasobo@gmail.com

小児支援班 堀岡 航

中央ブロック活動部より

「第2回情報交換会」開催のお知らせ

各種の地域支援事業に関わっているリハビリテーション専門職より、活動報告を含めて情報提供をしていただく予定です。また、報告後にディスカッションの時間を設けます。

※詳細は、追ってご連絡させていただきます。お待ちください。

地域リハビリテーションに興味を持っている方、これから地域で活動したいとお考えの方、活躍の場を広げたいという意欲をお持ちの方など、皆さん奮ってご参加ください。

日時 ▶ 令和6年2月28日(水) 18:30~20:00

開催方法 ▶ Web開催予定 (Zoom)

お問い合わせ ▶ 中央ブロック活動部3地区の地区長まで、お願いいたします。

男鹿南秋地区 花田定晴(男鹿みなど市民病院)

中央地区 鈴木貴博(中通リハビリテーション病院)

由利本荘地区 笹森仁美(由利本荘医師会病院)

- 10.7 協会第7回理事会ならびに第3回理事懇談会傍聴(Web)
- 10.8 協会組織運営協議会(Web)
- 10.11 秋田大学講義(秋田市)
- 10.13 地域病院交流会(秋田市)
- 10.14 秋田県呼吸ケア研究会ならびに世話人会(秋田市)
- 10.17 リハビリテーション教育評価機構実地調査(札幌市)
- 10.18 第4回理事会
- 10.21 第44回秋田県リハビリテーション研究会ならびに理事会、総会(秋田市)
- 10.22 全国自治体病院協議会オンラインセミナー(Web)
- 10.26 転倒腰痛対策個別支援(秋田市)
- 10.27 第1回秋田市在宅医療・介護連携推進協議会(秋田市)
- 10.29 第3回秋田県理学療法研修会(秋田市)
- 10.30 秋田JRATチーム編成委員会(Web)
- 10.31 令和5年度第四回秋田県医療審議会医療計画部会(秋田市)
- 11.1 秋田大学講義(秋田市)
- 11.6 令和5年度第一回秋田県医療審議会医療人材部会(秋田市)
- 11.7 秋田県医療ニーズ発表会(Web)
- 11.11 第19回潟上市社会福祉大会(潟上市)
- 11.14 秋田JRAT運営委員会(Web)
- 11.15 秋田県介護人材定着促進事業(潟上市)
- 11.15 秋田県リハビリテーション専門職協議会代表者会議(Web)
- 11.15 eセミナー(Web)
- 11.16 秋田県知事表彰授与式(秋田市)
- 11.16 秋田県知事表彰受章者と懇談(秋田市)
- 11.16 令和5年度第五回秋田県医療審議会医療計画部会(秋田市)
- 11.17 第2回スポーツ・パラスポーツグループセミナー(Web)



会長のあゆみ

10～12月会長活動記録

Cartoon by MomentCam

- 11.17 21世紀の医療を守る県民の集い交流会(秋田市)
- 11.18 21世紀の医療を守る県民の集い、総会(秋田市)
- 11.19 全国自治体病院協議会オンラインセミナー(Web)
- 11.22 秋田県介護人材定着促進事業(にかほ市)
- 11.22 eセミナー(Web)
- 11.24 秋田リハビリテーション学院様と懇談(秋田市)
- 11.26 秋田県リハビリテーション研究会イヤーピックアップセミナー(Web)
- 11.27 潟上市障害者総合支援法審査会(潟上市)
- 11.30～12.2 第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会(仙台市)
- 12.2 東北ブロック協議会事務局引継ぎ会(秋田市)
- 12.5 リハビリテーション教育評価機構実地調査(仙台市)
- 12.6 当会拡大理事会(秋田市)
- 12.8 秋田JMATとの打ち合わせ会議(秋田市)
- 12.9 秋田呼吸リハビリテーション懇話会協議会(秋田市)
- 12.12 令和五年度産業保健相談員会議(秋田市)
- 12.16 北東北がん医療コンソーシアム総会、講演会、特別講演(Web)
- 12.18 潟上市社会福祉協議会評議員会(潟上市)
- 12.20 秋田県リハビリテーション専門職協議会臨時代表者会議(Web)
- 12.27 秋田大学大学院医学系研究科医学部教授と面会(秋田市)

よこしま 思い邪無し

— 会長の想いをつづる —



先日、とある授与式に参列した。式冒頭の式辞や授与式でのプレゼンターの優美で落ち着き払った一挙手一投足に息をのんだ。視線は前を見据え、歩く速度、歩幅、姿勢、お辞儀の角度、指尖の位置とそこから延びるライン、どれもが程よく連動しており、動作のプロである理学療法士をも心地よくさせるほどの美しさであった。主催者側の相手に対する敬意が感じられ、出席された方々を引き込んでいるようにも感じられた。振る舞いで厳かな式が一層引き締まった。ここまで雰囲気のある方には、しばらくの間、出会ったことがない。指先にまで魂が宿るとはこのことをいうのだなと感嘆した。周囲に安心感を与えるのみならず、そのマインドも射止めてしまう次元の高い人格の持ち主は、日々どのような意識で過ごされているのか。非常に興味を持った。今までの自分を振りかえった。諦め半分で、少しだけ反省した。周りの方々の心情や背景に配慮できるよう心を磨けるだろうか。思いは尽きない。

菅原慶勇

思い邪無し：
「論語」より。人々の詩を詠む心について述べた一節。
嘘偽りのない純粹さの意。

ニュース編集班より

ParTner読者の皆様、あけましておめでとうございます。広報部の佐々木です。いつもお読みいただき、誠にありがとうございます。今年も皆様の興味を引く一冊となるよう努めてまいりますので、宜しくお願い申し上げます。

編集班では引き続き記事掲載のご相談や表紙を飾る風景写真をお待ちしております。次回ニュースの原稿締め切りは3月20日（水）です。年度末のお忙しい中とは存じますが、宜しくお願いいたします。

連絡・送付先：akita.ptnews@gmail.com

問い合わせ先：秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 佐々木杏奈

Tel：018-833-0115 Fax：018-833-2104

学校法人 コア学園

厚生労働大臣指定・秋田県知事認可校

秋田リハビリテーション学院

平成27年4月開校
秋田県初!
理学療法士養成専門学校

理学療法学科

4年課程

40名定員



〒010-0065 秋田市茨島一丁目4-80
TEL 018-865-0188 FAX 018-864-6137 URL <http://www.core-akita.ac.jp/arc/>

●応援します! 医療と福祉を確かな技術で



有限会社共栄メディカル

●総合医療機器 ●理化学器械 ●福祉用具レンタル ●介護用品 ●厨房設備機械 ●業務用洗濯機械

〒014-0102 秋田県大仙市四ツ屋字水木田33
〒010-0964 秋田市八橋鯉沼1-35 サニーハイツ102

TEL 0187-66-2123 (代)
FAX 0187-66-2139
☎ 0120-971-294

信頼の医療機器



株式会社秋田医科器械店

代表取締役 池ヶ谷 敏之

本社 〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地30-2
Tel.018-839-3551(代) Fax.018-839-3546

横手営業所 〒013-0064 横手市赤坂字大道向2-4
Tel.0182-32-8311(代) Fax.0182-32-8313

能代営業所 〒016-0014 能代市落合字上釜谷地189番
Tel.0185-52-0024(代) Fax.0185-54-7319

帝人ヘルスケア株式会社

東北支店 秋田営業所

秋田県秋田市大町3-4-1 NLP秋田ビル 7階

(社)日本義肢協会
登録・東北119号

厚生労働省指定工場

義肢・装具・コルセット・車椅子・各種杖

株式会社 佐々木義肢製作所

代表取締役 佐々木 和憲

本社 〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-3(木町通小学校前)
TEL (022) 274-1181(代) FAX (022) 274-1183
支店 〒010-0973 秋田市八橋本町二丁目7-1
TEL (018) 862-7204(代) FAX (018) 862-9347
〒036-8227 弘前市大字桔梗野二丁目16-12
TEL (0172) 33-1150(代) FAX (0172) 33-1153

一般社団法人日本義肢協会加盟・東北101号



株式会社 千秋義肢製作所

代表取締役 佐々木雅伸

義手・義足・装具・車椅子・リハビリ用品

秋田市新屋豊町1-22

TEL 018-823-3380 FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp>